

# Oracle9i Lite

リリース・ノート

リリース 5.0

2001年7月

**部品番号: J04494-01**

原典情報: Oracle9i Lite Release Notes, Release 5.0

**ORACLE®**

Oracle と Oracle のロゴは Oracle Corporation の登録商標です。Oracle9i Lite は、Oracle Corporation の商標です。記載されているその他の製品名および社名はその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれ該当する所有者の商標です。

Copyright © 2001, Oracle Corporation  
All Right Reserved

---

# 目次

はじめに.....	7
第 1 章 新機能.....	8
1.1 インストール.....	8
1.2 利用性およびカスタマイズ .....	8
1.3 拡張管理.....	8
1.4 配布の簡略化.....	9
1.5 対応するモバイル・デバイスの追加 .....	9
1.6 開発の容易性.....	9
1.7 拡張性およびパフォーマンスの強化 .....	9
1.8 セキュリティの改善 .....	10
1.9 その他.....	10
第 2 章 既知の問題点 .....	11
2.1 インストールおよび削除.....	11
2.1.1 Oracle 8.1.7 または O9iAS 1.0.2.1、あるいはその両方と同じマシンへの Oracle9i Lite のインストール .....	11
2.1.2 Mobile サーバーのインストール .....	11
2.1.3 Mobile サーバーおよび Mobile Development Kit のインストール .....	11
2.1.4 Windows 95/98 に Mobile Development Kit をインストールしても odbc.ini 、odbcinst.ini および polite.ini ファイルは更新されません .....	11
2.1.5 Oracle 8.1.6 がインストールされている Oracle_Home には Oracle9i Lite をインストールできません .....	12
2.1.6 Oracle9i Application Server 用 Mobile サーバー・モジュールの使用.....	12
2.1.7 同一のマシンへの Mobile サーバーおよび Oracle データベースの インストール.....	12
2.1.8 同一のマシンへの Mobile サーバーおよび Oracle HTTP Server の インストール.....	12

2.1.9 Oracle Lite データベース・ランタイムのアンインストール .....	13
2.1.10 Web-to-Go 用 Mobile クライアントのアンインストール .....	13
2.1.11 Web-to-Go 用 Mobile クライアントのインストールに失敗した場合 .....	13
2.1.12 4.0.1.0.0 または 4.0.1.2.0 からのリポジトリの移行はサポートされて いません .....	13
2.1.13 ORACLE_HOME 環境変数が存在する場合、Mobile サーバーの インストールは失敗します .....	13
2.2 Oracle Lite データベース .....	14
2.2.1 Windows CE 用の OKAPI はこのリリースでは使用できません .....	14
2.2.2 Oracle Lite データベースにおける列の最大数は 254 です .....	14
2.2.3 3 つ以上の外部結合を含む問合せはサポートされていません .....	14
2.2.4 Windows CE 用の Oracle Lite データベースにおけるリモートの ODBC は DHCP では失敗します .....	14
2.2.5 行単位のバインドは Oracle Lite データベースではサポートされてい ません .....	14
2.2.6 Palm-Size の Windows CE デバイス .....	14
2.2.7 Oracle Lite JDBC ドライバで Mobile SQL を使用した TYPE4 の JDBC 接続文字列を使用中に「内部エラー: 接続文字列が無効です。」 が発生します。 .....	14
2.2.8 Oracle Lite データベースでは 3 つ以上の外部結合の問合せを処理 できません .....	15
2.2.9 Oracle Lite データベースが暗号化されている場合、Mobile Sync では 同期化を実行できません .....	15
2.2.10 Windows CE 用の Mobile SQL では NULL 値を含む列が正しく表示 されません .....	16
2.3 Web-to-Go .....	16
2.3.1 Web-to-Go のサンプル 5 - クラスが見つかりません .....	16
2.3.2 Web-to-Go JDBC アプレットは Internet Explorer では動作しない場合 があります .....	16
2.3.3 「実行中のアプリケーション」では Web-to-Go ワークスペースにより アプリケーション名ではなく番号が表示されます .....	16

2.3.4 管理者のパスワードを変更すると Web-to-Go ワークスペースに エラー・メッセージが戻されます.....	16
2.3.5 Web-to-Go 用 Mobile クライアントでは SSL にエラーが発生します .....	17
2.4 Mobile サーバー・コントロール・センター .....	17
2.4.1 新規に追加されたユーザーのデータ・サブセッティング・パラメータは、 Mobile サーバー・コントロール・センターでは使用できません .....	17
2.4.2 コントロール・センターを介してグループのメンバーにデータ・ サブセッティング・パラメータは表示されません.....	17
2.4.3 コントロール・センターのアプリケーションを一時停止することは 推奨されていません.....	17
2.5 Mobile Sync.....	17
2.5.1 Mobile Sync を使用したパスワードの変更はできません.....	17
2.5.2 Windows CE デバイス用の Mobile Sync には TCP/IP スタックが インストールされている必要があります.....	18
2.5.3 ボー・レートが 19200 を超えると Mobile Sync が失敗します (エラー23) .....	18
2.6 配布 .....	18
2.6.1 Windows 95 環境では Windows 32 用 Mobile クライアントで JRE が インストールされません.....	18
2.6.2 Internet Explorer 5.5 を使用して SETUP.EXE をダウンロードする場合 の問題点.....	18
2.6.3 Windows 95 および 98 に Web-to-Go 用 Mobile クライアントを インストールするにはブラウザを再起動する必要があります.....	19
2.6.4 Windows 95 および 98 に Windows 32 用 Mobile クライアントを インストールするにはブラウザを再起動する必要があります.....	20
2.6.5 <webtogo> DSN エントリがすでに存在する場合、ODBC を使用した Web-to-Go 用 Mobile クライアント・データベースへのアクセスは失敗する 可能性があります.....	20
2.7 言語上の問題点 (CCJK とは中国、台湾、日本、韓国を指します) .....	20
2.8 CCJK についての補足情報.....	20
2.8.1 キャラクタ・セット .....	20
2.8.2 POLITE.INI における NLS パラメータ .....	21

2.8.3 コンポーネントに固有の情報.....	22
2.8.4 CCJK についての制限事項.....	23
第 3 章 トラブルシューティングおよび補足情報.....	24
3.1 DSN 名.....	24
第 4 章 ネーミング規則.....	25
第 5 章 よくある質問.....	27
5.1 Oracle9i Lite 5.0 について説明してください。.....	27
5.2 Palm Computing、Windows32 および Windows CE 用の Oracle Lite データベースはどのように変わりましたか?.....	27
5.3 Mobile サーバーについて説明してください。.....	28
5.4 同期サーバーはどのように変わりましたか?.....	28
5.5 Web-to-Go Server はどのように変わりましたか?.....	28
5.6 Consolidator サーバーはどのように変わりましたか?.....	28
5.7 Mobile サーバーの管理方法について説明してください。.....	28
5.8 Mobile Server Extension API について説明してください。.....	28
5.9 Mobile クライアントのインストール方法について説明してください。.....	28
5.10 セットアップ・プログラムはどこからランタイム・ライブラリを取得 しますか?.....	29
5.11 セットアップ・プログラムが、Mobile クライアントにダウンロードする ファイルを認識する方法について説明してください。.....	29
5.12 セットアップ・プログラムが、使用する SETUP.INI ファイルを認識する方 法について説明してください。.....	30
5.13 クライアントのランタイム・ライブラリはどのようにしてリポジトリに インストールされますか?.....	30
5.14 Mobile クライアントを Palm デバイスにインストールする方法について説明 してください。.....	30
5.15 Mobile クライアントを Windows CE デバイスにインストールする方法に ついて説明してください。.....	31
5.16 オフライン・アプリケーション自体をデバイス上に取得する方法について 説明してください。.....	31

5.17 アプリケーション用ファイルは Mobile サーバー・リポジトリ内にどのように格納されていますか?.....	31
5.18 Mobile アプリケーションを Mobile サーバー・リポジトリ内に取得する方法について説明してください。.....	31
5.19 パブリケーションおよびパブリケーション・アイテムの作成方法について説明してください。.....	32
5.20 Oracle Lite データベースへの接続に SQL*Plus を使用できない理由について説明してください。.....	32
5.21 SQL を使用した Oracle Lite データベースへの接続方法について説明してください。.....	32
5.22 無線ネットワークを介してデータをレプリケートできますか?.....	32
5.23 Hotsync を使用して Palm Computing デバイスでデータをレプリケートできますか?.....	33
5.24 Oracle9i Lite のコンポーネントについて説明してください。.....	33
第 6 章 使用できない機能およびコンポーネント.....	35

---

# はじめに

このリリースは、Windows 95/98/NT/2000、Windows CE/Pocket PC および Palm Computing Platform 用の Oracle9i Lite リリース 5.0 です。このリリース・ノートでは、次の製品に関する最新の拡張機能、新機能、既知の制限事項、マニュアル上の問題点、さらにトラブルシューティングのヒントを説明します。

このリリース・ノートで説明する項目は、次のとおりです。

- 第1章 新機能
- 第2章 既知の問題点
  - 2.1 インストールおよび削除
  - 2.2 Oracle Lite データベース
  - 2.3 Web-to-Go
  - 2.4 Mobile サーバー・コントロール・センター
  - 2.5 Mobile Sync
  - 2.6 配布
  - 2.7 言語上の問題点 (CCJK とは中国、台湾、日本、韓国を指します)
  - 2.8 CCJK についての補足情報
- 第3章 トラブルシューティングおよび補足情報
- 第4章 ネーミング規則
- 第5章 よくある質問
- 第6章 使用できない機能およびコンポーネント

---

# 第 1 章 新機能

## 1.1 インストール

インストールおよび構成が簡略化されました。

## 1.2 利用性およびカスタマイズ

単一の Mobile サーバー

単一の Mobile Development Kit

Mobile Server Extension API

Mobile ワークスペース API

レプリケーションのプログラム制御用 Mobile Sync API

同一のモバイル・ユーザー用マルチプラットフォーム・パブリケーション

カスタマイズされた競合解消

DML コールアウトのカスタマイズ

Web-to-Go 用 Mobile クライアントの同期専用モード

Web-to-Go 用 Mobile クライアントにおけるオフライン・モードで使用可能なブックマーク

## 1.3 拡張管理

統合リポジトリ

Mobile サーバーのバッチ管理

Mobile Server Admin API

Web-to-Go 用 Mobile クライアントのジョブ制御エンジン

Web-to-Go 用 Mobile クライアントの自動アップグレード

アクティブ・ユーザー・セッション・リスト

スキーマの展開

コントロール・センターを介した Message Generator and Processor (MGP) の管理



## 1.4 配布の簡略化

マルチプラットフォーム・パブリケーションにより、同一のクライアントが複数のデバイス上でデータを同期化可能

事前に構成された Windows 32/CE および Palm 用の Mobile クライアント・バンドル

インターネットを介した Windows 32/CE 用の Mobile クライアントの自動インストールおよび構成

## 1.5 対応するモバイル・デバイスの追加

Windows CE、2.11、3.0.0

StrongARM、SH4

## 1.6 開発の容易性

ネイティブ・アプリケーションおよび Web ベースのアプリケーションのパッケージ

パッケージ・ウィザード機能の拡張

Windows 32 用の ODBC 3.5 のサポート

Windows CE における JDBC

Windows CE 上の Visual Basic 用 ActiveX Data Objects (ADO)

パブリケーション・アイテムの自動作成

データ・レプリケーションによるラージ・オブジェクト (Large Object: LOB) ・データ型のサポート

COM ラッパーにより Windows CE 上で Visual Basic によるレプリケーションのプログラム制御が可能

## 1.7 拡張性およびパフォーマンスの強化

Mobile サーバーのロード・バランシング

優先度ベースのレプリケーション

論理主キー

選択的なアプリケーションの同期  
選択的なパブリケーションの同期  
通信回線上でのデータ圧縮  
Mobile サーバー・コントロール・センターのコア最適化  
レプリケーションのコア最適化

## 1.8 セキュリティの改善

Web-to-Go 用 Mobile クライアントの SSL サポート  
Windows 32 用 Mobile Sync クライアントの SSL サポート  
モバイル・ユーザーの外部認証

## 1.9 その他

Windows 2000 のサポート  
すべてのプラットフォームおよびコンポーネントにおける Consolidator ベースのレプリケーション  
クライアントにおけるすべての SQL 操作の Mobile SQL ツール  
REPAPI から Consolidator への移行  
O9iAS および Apache のサポート  
8.1.6 および 8.1.7 のサポート  
JDK 1.2 のサポート

---

## 第 2 章 既知の問題点

### 2.1 インストールおよび削除

**重要:** コンポーネントのインストール場所またはインストール方法にかかわらず、コンポーネントを使用する前にシステムを再起動してください。

#### 2.1.1 Oracle 8.1.7 または O9iAS 1.0.2.1、あるいはその両方と同じマシンへの Oracle9i Lite のインストール

Oracle 8.1.7 以降の Oracle データベース・サーバーまたは Oracle9iAS 1.0.2.1 以降のアプリケーション・サーバーが、Oracle9i Lite Mobile サーバーをインストールするマシンにすでにインストールされている場合、Mobile サーバー用に既存の Oracle ホーム・ディレクトリを使用することをお勧めします。これにより、インストール中の Required Support Files のコピーが重複するのを回避できます。

#### 2.1.2 Mobile サーバーのインストール

JDK が正しくインストールされていない場合、Mobile サーバーのインストール中にリポジトリ・ウィザードが起動されません。

手順 1: JDK 1.2 をインストールします。

手順 2: DOS プロンプトで次のように入力して Java のバージョンを確認します。  
`c:> java -version`

手順 3: Mobile サーバーをインストールします。

#### 2.1.3 Mobile サーバーおよび Mobile Development Kit のインストール

Oracle9i Lite のコンポーネントは、既存の 8.0.x のデフォルトのホームにはインストールできません。8.0.x の Required Support File は、Oracle9i Lite とは互換性がありません。新しいディレクトリを作成するか、既存の Oracle8i のディレクトリにインストールしてください。

#### 2.1.4 Windows 95/98 に Mobile Development Kit をインストールしても odbc.ini、odbcinst.ini および polite.ini ファイルは更新されません

Mobile Development Kit のインストール後、DOS プロンプトを開き ORACLE\_HOME¥Mobile¥Sdk¥Bin の下にある updatini.bat ファイルを実行してください。

## 2.1.5 Oracle 8.1.6 がインストールされている Oracle\_Home には Oracle9i Lite をインストールできません

マシンに Oracle 8.1.6 がインストールされている場合は、別の Oracle\_Home を選択して Oracle9i Lite のコンポーネントをインストールしてください。

## 2.1.6 Oracle9i Application Server 用 Mobile サーバー・モジュールの使用

Oracle9i Application Server 用 Mobile サーバー・モジュールには Net 8.1.7 のライブラリが必要です。これらのライブラリは Oracle9i Lite の CD-ROM に含まれており、Mobile サーバーのインストール時に自動的にインストールされます。Oracle9i Application Server では、Mobile サーバー・モジュールと他のモジュールを同時に実行するように構成できます。ただしこれらのモジュールでは、Mobile サーバーとして Net8 ライブラリ (Net8.1.7) と同じバージョンを使用する必要があります。

Oracle9i Application Server と Mobile サーバーを別の Oracle\_Home にインストールした場合でも、この制限事項は回避できません。

## 2.1.7 同一のマシンへの Mobile サーバーおよび Oracle データベースのインストール

Mobile サーバーをインストールするには、Oracle データベースが事前にインストールされている必要があります。Mobile サーバーと Oracle データベースを同じマシンにインストールできるのは、次の条件が満たされた場合のみです。

1. Mobile サーバーをインストールする前に Oracle データベースをインストールしておく必要があります。
2. Oracle 8.1.7 データベースを使用する場合、Mobile サーバーと Oracle データベースは、同一の Oracle Home を共有できます。
3. Oracle 8.1.6 データベースを使用する場合、Net8 ライブラリのバージョンが異なるため、Mobile サーバーと Oracle データベースは別の Oracle Home にインストールする必要があります。

## 2.1.8 同一のマシンへの Mobile サーバーおよび Oracle HTTP Server のインストール

Mobile サーバーでは、Mobile サーバーと同じマシンに (Oracle 8.1.7 から) インストールされた Oracle HTTP Server を使用して TNSNAMES.ORA にエントリーを作成できません。次の手順を実行します。

手順 1: TNS リスナー・プロセスを停止します。

手順 2: Mobile サーバー・リポジトリに対する TNS 文字列を TNSNAMES.ORA に手動で入力します。

手順 3: REPWIZARD.BAT を手動で起動します。

## 2.1.9 Oracle Lite データベース・ランタイムのアンインストール

Software Asset Manager を使用した Oracle Lite ランタイム・ライブラリのアンインストールは失敗する場合があります。このエラーを回避するには、Oracle Lite ランタイムのみをアンインストールするようにします。同時に複数のコンポーネントを選択しないでください。

### 2.1.10 Web-to-Go 用 Mobile クライアントのアンインストール

Web-to-Go 用 Mobile クライアントのアンインストール・ユーティリティ (uninst.exe) では、Oracle Lite データベース・ファイル (\*.odb) は削除されません。Oracle Lite データベース・ファイルを手動で削除する必要があります。

### 2.1.11 Web-to-Go 用 Mobile クライアントのインストールに失敗した場合

マシンの ODBC DSN のリスト内に、すでに 'webtogo' がある場合、Web-to-Go 用 Mobile クライアントのインストールは失敗します。この問題は、Mobile Development Kit が同じシステムにインストールされている場合などに発生します。Web-to-Go 用 Mobile クライアントをインストールする前に、ODBC DSN のエントリを確認し、'webtogo' という DSN エントリを手動で削除します。

### 2.1.12 4.0.1.0.0 または 4.0.1.2.0 からのリポジトリの移行はサポートされていません

Oracle*8i* Lite バージョン 4.0.1.2.0 および 4.0.1.0.0 に含まれている Synchronization Server for Handheld devices の移行はサポートされていません。かわりに、リポジトリ・ウィザードの実行時に移行用の Web-to-Go を含むスキーマを選択する必要があります。移行後に、パブリケーションを再作成する必要があります。

### 2.1.13 ORACLE\_HOME 環境変数が存在する場合、Mobile サーバーのインストールは失敗します

「システムのプロパティ/環境変数」パネルで ORACLE\_HOME システム変数がないことを確認してください。

## 2.2 Oracle Lite データベース

### 2.2.1 Windows CE 用の OKAPI はこのリリースでは使用できません

Windows CE 上で Oracle Lite データベースにアクセスするには ODBC または JDBC のいずれかを使用してください。

### 2.2.2 Oracle Lite データベースにおける列の最大数は 254 です

Oracle8i データベースにおける列の最大数は 1000 であるため、レプリケートされる列の数は 254 未満である必要があります。

### 2.2.3 3 つ以上の外部結合を含む問合せはサポートされていません

### 2.2.4 Windows CE 用の Oracle Lite データベースにおけるリモートの ODBC は DHCP では失敗します

リモートの ODBC は、IP アドレスによって Windows CE デバイスを認識します。この IP アドレスは、Windows CE に Oracle Lite データベースをインストールするときに設定されます。リモートの ODBC 機能を使用するには、静的な IP アドレスを使用する必要があります。

### 2.2.5 行単位のバインドは Oracle Lite データベースではサポートされていません

行単位のバインドは ODBC 3.5 データベース・ドライバではサポートされていません。

### 2.2.6 Palm-Size の Windows CE デバイス

Palm-Size デバイスが実行される Windows CE のバージョンにかかわらず、Windows CE 2.0 用に構築された Oracle Lite データベース・ファイルを使用してください。

### 2.2.7 Oracle Lite JDBC ドライバで Mobile SQL を使用した TYPE4 の JDBC 接続文字列を使用中に「内部エラー: 接続文字列が無効です。」が発生します。

次に例を示します。

```
msql system/manager@jdbc:polite4@webtogo
```

この問題は、前述の例では「webtogo」などの DSN が DSN 機能を使用して作成されたときに発生します。

現在、TYPE4 の JDBC ドライバでは DSN のコンテンツまたはプロパティが読み込まれないため、サーバーDSN の概念が認識されません。使用するデータベース・リスナーへ DSN が渡されるのみです。この問題を回避するには、Oracle Lite リスナー・プロセスまたは Web-to-Go サーバーを実行しているサーバー・マシンにある DSN と同じ名前の DSN をクライアント・マシンに作成します。サーバー・マシンのホスト名も接続文字列 (URL) に渡される必要があります。ポート番号が指定されていない場合、デフォルトは 100 です。サーバー・マシンの DSN 名が webtogo で、作成したクライアント DSN の名前が webtogo の場合、次のようになります。

```
msql system/  
manager@jdbc:polite@john-pc5.us.oracle.com:100:webtogo
```

## 2.2.8 Oracle Lite データベースでは 3 つ以上の外部結合の問合せを処理できません

現在、3 つ以上の外部結合コールを含む問合せは処理されません。

## 2.2.9 Oracle Lite データベースが暗号化されている場合、Mobile Sync では同期化を実行できません

暗号化されたデータベースで同期化を行うには次の手順を実行してください。

手順 1: 最初に同期化を実行し、暗号化されていない Oracle Lite データベース・ファイルを作成して¥oldb40 ディレクトリに格納します。

手順 2: ENCRYPTDB ユーティリティを使用してデータベース・ファイルを暗号化します。Mobile Sync で使用したものと同一パスワードを使用する必要があります。パスワードでは大/小文字が区別されます。たとえば、S11U1/MANAGER を使用して同期化を行う場合、パスワードを MANAGER としてデータベース・ファイルを暗号化します。

パスワードを変更するには、次の手順を実行してください。

手順 1: Mobile Sync を起動し、現在のパスワードおよび新しいパスワードを入力します。

手順 2: 同期化を行います。

手順 3: 現在のパスワードで DECRYPTDB を実行します。

手順 4: 新しいパスワードで ENCRYPTDB を実行します。

## 2.2.10 Windows CE 用の Mobile SQL では NULL 値を含む列が正しく表示されません

NULL 値を含む列については、その特定の列のみを選択してください。たとえば「col3」という名前の列が表示され、その列に無効なデータがあった場合、「select col3 from myTable」と入力して検証を行います。

## 2.3 Web-to-Go

### 2.3.1 Web-to-Go のサンプル 5 - クラスが見つかりません

サンプル 5 が正しく動作するには、クラスパスに webtogo.jar があることを確認してからブラウザを起動する必要があります。Web-to-Go 用 Mobile クライアントのセットアップ・プログラムによってクラスパスが自動的に変更されますが、この変更を有効にするにはブラウザを再起動する必要があります。

### 2.3.2 Web-to-Go JDBC アプレットは Internet Explorer では動作しない場合があります

Internet Explorer のバージョンによっては、Java RMI がサポートされていません。その結果、Web-to-Go アプレットの JDBC 接続を使用しているアプレットを実行中に、次のエラーが発生する場合があります。

```
java.lang.NoClassDefFoundError: java/rmi/Naming
```

この問題を回避するには、すべての RMI クラスを含む jar ファイルを作成し、アプレットを実行しているマシン上のクラスパスにその jar ファイルを置きます。たとえば、JDK 1.1.x の classes.zip では、RMI クラスはパッケージ java¥rmi および sun¥rmi 内にあります。

### 2.3.3 「実行中のアプリケーション」では Web-to-Go ワークスペースによりアプリケーション名ではなく番号が表示されます

Web-to-Go ワークスペースの「実行中のアプリケーション」ではアプリケーション名ではなく番号が表示されます。

### 2.3.4 管理者のパスワードを変更すると Web-to-Go ワークスペースにエラー・メッセージが戻されます

エラー・メッセージを無視してください。Mobile サーバーからログオフし、新しいパスワードで管理者として再接続します。



### 2.3.5 Web-to-Go 用 Mobile クライアントでは SSL にエラーが発生します

この問題が発生するのは、ユーザーが SSL を O9iAS SSL モードで使用し、Web-to-Go 用 Mobile クライアントがオンラインまたはオフライン・モードで動作している場合のみです。Web-to-Go 用 Mobile クライアントが同期専用モード（デフォルト）で動作している場合、この問題は起こりません。

## 2.4 Mobile サーバー・コントロール・センター

### 2.4.1 新規に追加されたユーザーのデータ・サブセッティング・パラメータは、Mobile サーバー・コントロール・センターでは使用できません

コントロール・センターから新規ユーザーをグループに追加した後、新規に追加されたこのユーザーのデータ・サブセッティング・パラメータをどのアプリケーションにも使用できないことが判明した場合、このユーザーにアプリケーションへのユーザー・ベース・アクセスを付与して問題を解決してください。ユーザー・ベース・アクセスを付与するには、コントロール・センターからアプリケーションを選択し「セキュリティ」をクリックします。

### 2.4.2 コントロール・センターを介してグループのメンバーにデータ・サブセッティング・パラメータは表示されません

アプリケーションへの割当てを、ユーザー・グループではなく個々のユーザーごとに行ってください。

### 2.4.3 コントロール・センターのアプリケーションを一時停止することは推奨されていません

コントロール・センターのアプリケーションは一時停止できますが、これはお薦めできません。一時停止するには Mobile サーバーを再インストールする必要があります。

## 2.5 Mobile Sync

### 2.5.1 Mobile Sync を使用したパスワードの変更はできません

mSync を使用してパスワードを変更することはできません。パスワードを変更するには、ブラウザを使用して Mobile サーバーにログオンし、「構成」タブから「パスワードの変更」を選択します。

## 2.5.2 Windows CE デバイス用の Mobile Sync には TCP/IP スタックがインストールされている必要があります

Windows CE デバイスに TCP/IP スタックがインストールされていない場合、Windows CE デバイスと Mobile サーバーとの同期は失敗します。

## 2.5.3 ポー・レートが 19200 を超えると Mobile Sync が失敗します (エラー 23)

ポー・レートは 19200 以下にしてください。プロキシ・サーバーを選択し、環境に対応するプロキシ・サーバー設定を以下のように入力してください。

例 : "www-proxy.us.oracle.com"

## 2.6 配布

### 2.6.1 Windows 95 環境では Windows 32 用 Mobile クライアントで JRE がインストールされません

Windows 95 マシンで Java が採用されていない場合、Mobile クライアントのセットアップ・プログラムでは Java ランタイム環境がインストールされません。

autoexec.bat ファイルを手動で変更し、マシンを再起動してください。変更の手順は次のとおりです。

autoexec.bat に次の環境変数を追加します。

1. PATH =<Mobile クライアント・ディレクトリ>%mobile%bin
2. CLASSPATH = <Mobile クライアント・ディレクトリ>%mobile%classes%olite40.jar
3. メッセージ・ボックスが表示され、マシンを再起動するよう要求されます

### 2.6.2 Internet Explorer 5.5 を使用して SETUP.EXE をダウンロードする場合の問題点

Windows NT、95 または 98 で Internet Explorer 5.5 を使用して setup.exe プログラムをダウンロードする場合、setup.exe プログラムをダウンロードして保存または実行することが困難な場合があります。「ヘルプ」から「バージョン情報」を選択すると Internet Explorer のバージョン番号が確認できます。

setup.exe プログラムをダウンロードして実行するには、次の手順に従ってください。

手順 1: ダウンロードする **Mobile** クライアントのセットアップ・プログラムへのリンクをクリックします。

手順 2: 「ファイルのダウンロード」ダイアログ・ボックスが表示されます。次のオプションを選択します。

「このファイルを上記の場所から開く」

手順 3: 2 番目の「ファイルのダウンロード」ダイアログ・ボックスが表示されます。次のオプションを選択します。

「このファイルを上記の場所から開く」

手順 4: 3 番目の「ファイルのダウンロード」ダイアログ・ボックスが表示されます。次のオプションを選択します。

「このプログラムを上記の場所から実行する」

手順 5: 「セキュリティの警告」ダイアログ・ボックスが表示され、次の警告が示されます。

「Authenticode の署名が見つかりません」

手順 6: 「はい」を選択して **Mobile** クライアントのセットアップ・プログラムを実行します。

**setup.exe** プログラムをダウンロードして保存するには、次の手順に従ってください。

手順 1: ダウンロードする **Mobile** クライアントのセットアップ・プログラムへのリンクをクリックします。

手順 2: 「ファイルのダウンロード」ダイアログ・ボックスが表示されます。次のオプションを選択します。

「このファイルを上記の場所から開く」

手順 3: 2 番目の「ファイルのダウンロード」ダイアログ・ボックスが表示されます。次のオプションを選択します。

「このファイルをディスクに保存する」

手順 4: 「名前を付けて保存」ダイアログ・ボックスが表示されます。ファイルを保存する場所を選択します。「保存」を選択してファイルを保存します。

### 2.6.3 Windows 95 および 98 に Web-to-Go 用 Mobile クライアントをインストールするにはブラウザを再起動する必要があります

Web-to-Go 用 Mobile クライアントのセットアップ・プログラムによってクラスパスが自動的に変更されますが、この変更を有効にするにはブラウザを再起動する必要があります。

## 2.6.4 Windows 95 および 98 に Windows 32 用 Mobile クライアントをインストールするにはブラウザを再起動する必要があります

Windows 32 用 Mobile クライアントのセットアップ・プログラムによってクラスパスが自動的に変更されますが、この変更を有効にするにはブラウザを再起動する必要があります。

## 2.6.5 <webtogo> DSN エントリがすでに存在する場合、ODBC を使用した Web-to-Go 用 Mobile クライアント・データベースへのアクセスは失敗する可能性があります

この問題が発生するのは、Mobile Development Kit が Web-to-Go 用 Mobile クライアントと同じマシンにインストールされている場合のみです。この問題を解決するには、ODBC Administrator を使用して<webtogo> DSN エントリを手動で削除してください。

## 2.7 言語上の問題点（CCJK とは中国、台湾、日本、韓国を指します）

EPOC 用の Mobile クライアントおよび Mobile Development Kit は CCJK 諸国用にサポートされていません。

Windows CE (x86) 用の Mobile クライアントおよび Mobile Development Kit は CCJK 諸国用にサポートされていません。

Branch Office は CCJK 諸国用にサポートされていません。

## 2.8 CCJK についての補足情報

このリリースは MLE（複数言語版）リリースです。このリリースでは英語およびヨーロッパ語に加えて CCJK（中国、台湾、日本、韓国）言語がサポートされています。この項では、このリリースでの CCJK 固有の情報について説明します。

### 2.8.1 キャラクタ・セット

#### 2.8.1.1 データベース・カーネルでサポートされているキャラクタ・セット

Oracle Lite データベースは NLS コンポーネントではありません。このデータベースは、カーネル・サイズを小さくするために Windows 対応のネイティブ・キャラクタ・セットをサポートする各言語ごとに構築されています。つまり、言語ごとにカーネルがあります。このリリースでサポートされているキャラクタ・セットは次のとおりです。

中国語: MS936 コード・ページ (中国語 (簡体字) GBK、ZHS)

台湾語: MS950 コード・ページ (中国語 (繁体字) Big5、ZHT)

日本語: MS932 コード・ページ (日本語 (SHIFT\_JIS)、JA)

韓国語: MS949 コード・ページ (韓国語、Ko)

このリスト内の各言語に対応するデータベース・カーネルは、対応するキャラクタ・セットのみをサポートしています。他のマルチバイト・キャラクタ・セットはサポートされていません。

### 2.8.1.2 Mobile サーバーでサポートされているキャラクタ・セット

Mobile サーバー・コンポーネント (Mobile SDK、mSync を含む) は NLS コンポーネントです。これらのコンポーネントは Java テクノロジーに基づいて構築されており、Java テクノロジーによってサポートされるすべてのキャラクタ・セットをサポートしています。ただし、いくつかの制限事項があります。「CCJK についての制限事項」を参照してください。

## 2.8.2 POLITE.INI における NLS パラメータ

適切な言語を処理するには、NLS 関連のパラメータを POLITE.INI で記述されているとおりに設定する必要があります。NLS 関連のパラメータは POLITE.INI で設定されています。これらのパラメータはインストール中にデフォルトで設定されます。

### 2.8.2.1 NLS\_LOCALE

Oracle Lite データベースでは NLS\_LOCALE パラメータが参照されます。このパラメータはカレンダーおよび通貨単位の処理動作に影響するため、各言語に固有の値に設定する必要があります。NLS\_LOCALE パラメータの実際の値は次のとおりです。

ZHS (中国) の場合: CHINESE-SIMPLIFIED

ZHT (台湾) の場合: CHINESE-TRADITIONAL

JA (日本) の場合: JAPANESE

KO (韓国) の場合: KOREAN

### 2.8.2.2 DBCharEncoding

DBCharEncoding パラメータは、Oracle Lite データベースおよび Oracle Lite JDBC ドライバのコード変換の動作に影響します。このパラメータは、言語に関係なく次のように設定する必要があります。

DBCharEncoding = Native

### 2.8.2.3 NLS\_DATE\_FORMAT

NLS\_DATE\_FORMAT パラメータは、日付の入力書式および出力書式に影響します。このパラメータは必須ではありません。日付書式の表記法については、『Oracle9i Lite Windows 32 開発者ガイド』を参照してください。

## 2.8.3 コンポーネントに固有の情報

### 2.8.3.1 Palm Computing Platform のオーバーレイ・サポート

このリリースには Palm Computing Platform で動作する Mobile SQL および Mobile Sync という 2 つの GUI コンポーネントがあります。これらのコンポーネントの GUI 部分はオーバーレイ・テクノロジーに基づいて翻訳でき、Palm, Inc から提供されます。このリリースにおける日本市場向けのリソース.prc ファイルは、次のとおりです。

ConsolidatorClient\_jpJP.prc

ConsClientStatic\_jpJP.prc

msql\_jpJP.prc

msql\_static\_jpJP.prc

これらのファイルに含まれているのは対応する実行可能ファイル (.prc) のリソース部分のみであるため、リソース・ファイルのみがインストールされた場合、これらのファイルは動作しません。

Mobile サーバーの配布環境では、デフォルトで Mobile Sync およびそのリソース・ファイルが同時に配布されます。Mobile Development Kit の開発環境では、ユーザーは実行可能ファイルとリソース・ファイルの両方を手動でインストールする必要があります。

オーバーレイ・テクノロジーの詳細は、<http://www.palmos.com> で配布されている『Palm OS Programmer's Companion』を参照してください。

### 2.8.3.2 Mobile Development Kit のパッケージ・ウィザード

「パッケージ・ウィザード」画面の GUI 部分やメッセージ文字列は、パッケージ・ウィザード自体によってクリップされる場合があります。この問題は「パッケージ・ウィザード」ウィンドウのサイズを変更することで解決できます。

### 2.8.3.4 Mobile サーバーのコード変換動作

Mobile サーバーには、コード変換機能が内部的に用意されています。サブレット・プログラミングでは、サブレットにコード変換ロジックを実装してクライアント側からパラメータ値を取得するのが一般的な方法です。このリリースでは、Mobile サーバーにより自動的にコード変換が行われます。ユーザーがコード変換をサブレットに実装す

する必要はありません。コード変換コードが実装されると、取得されたパラメータ値が否認されます。

### 2.8.3.5 Mobile サーバー・リポジトリ・ウィザードの完了メッセージ

Mobile サーバー・リポジトリ・ウィザードで、ウィザード完了時に表示される「ファイル[OracleHome]をチェックしてください¥Mobile¥サーバー¥の Repository.log にエラーがあります。」は「[OracleHome]¥Mobile¥Server¥Repository.log ファイル内のエラー・メッセージの内容を確認してください」の誤りです。

## 2.8.4 CCJK についての制限事項

### 2.8.4.1 Mobile Sync および Web-to-Go のユーザー名

Mobile Sync 名および Web-to-Go ユーザー名にはマルチバイト・キャラクターを使用できません。

### 2.8.4.2 Mobile サーバー・レプリケーション (Consolidator と呼ばれます) の文字整合性に関する問題点

Mobile Sync が UTF8 以外のマルチバイト・キャラクター・セットを含む Oracle Server データベースと同期を取るとき、文字の整合性に関する問題が発生します。Mobile Sync は Oracle 8.1.7 OCI JDBC ドライバを使用してサーバー・データベースからデータを取得します。Oracle 8.1.7 OCI JDBC ドライバでは、Oracle Server の NLS 機能によりキャラクター・セットがデータベース・キャラクター・セットから UTF8 へ変換されます。コード変換時には、文字マッピングの違いにより否認されるマルチバイト・キャラクターがあります。これは Mobile Sync のバグではありません。

詳細は、Oracle Technology Network Japan (otn.oracle.co.jp) の「テクノロジー」カテゴリの Java についての項にある技術資料『JDBC 8.1.7 上での NLS 環境における問題について』を参照してください。

### 2.8.4.3 Mobile サーバー・レプリケーション (Consolidator と呼ばれます) のサンプル 11

Oracle8i Server と Oracle Lite for Palm データベースでは予約語の処理方法が異なるため、Oracle Lite for Palm データベースではオブジェクト名に使用できない文字があります。たとえば、「Orders」というサンプル・アプリケーション (サンプル 11 のデータベース・スキーマ) では、KEY という語が ORD\_DETAIL 表の列名として使用されています。KEY は Oracle Lite for Palm データベースで予約語として認識されますが、KEY 列を含む SQL では構文エラーが起きます。したがって、KEY 列は Palm Computing Platform ではアクセスできません。

---

## 第 3 章 トラブルシューティングおよび補足情報

### 3.1 DSN 名

DSN 名は各データベースに対して DSN を作成する Mobile Sync によって自動的に作成されます。DSN 名の書式は次のとおりです。

<ユーザー名>\_<パブリケーション名>

たとえば、ユーザー S11U1 がデータベース（パブリケーション）名として ORDERS を持っている場合、新しく作成される DSN は次のようになります。

"S11U1\_ORDERS"

この DSN を使用して ODBC、JDBC または ADO から接続できます。OKAPI については、コール側の `okGetDsn()` を使用して DSN 名からデータベース名を取得することをお勧めします。



## 第 4 章 ネーミング規則

Oracle9i Lite リリース 5.0 での新規名称	Oracle8i Lite 4.0.1.2 での旧名称
Mobile サーバー	Web-to-Go サーバー Web-to-Go Web サーバー Consolidator サーバー 同期サーバーWeb-to-Go Web リスナー
Mobile サーバー・モジュール (iAS 用)	Web-to-Go Apache モジュール
Mobile サーバー・モジュール (Apache 用)	Web-to-Go Apache モジュール
Mobile サーバー・ロード・バランシング・モジュール (iAS 用)	なし
Mobile サーバー・ロード・バランシング・モジュール (Apache 用)	なし
Mobile サーバー・コントロール・センター	Web-to-Go コントロール・センター
Mobile サーバー・リポジトリ・ユーティリティ	シェル・ユーティリティ
パッケージ・ウィザード	パブリッシュ・ウィザード
ディプロイメント	
Mobile クライアント (Web-to-Go 用)	なし
Mobile クライアント (Win32 用)	なし
Mobile クライアント (Palm 用)	なし
Mobile クライアント (EPOC 用)	なし
Mobile クライアント (WinCE 用)	なし
Branch Office	
Branch Office クライアント	Oracle Lite (Branch Office 用)、 Branch Office サーバー (第 3 層)
Branch Office データベース	Branch Office クライアント (第 4 層) マ ルチユーザー・データベース
Branch Office コントロール・センター	Mini Server 管理ツール
Web-to-Go	Web-to-Go

Mobile サーバー	Consolidator
Branch Office	Oracle Lite (Branch Office 用)
Mobile Server Admin API	Mobile Server Admin API
Mobile Sync API	OCAPI
Mobile Server Admin API	WTG Admin API
Mobile ワークスペース API	WTG ワークスペース API
Mobile Server Extension API	WTG ExterndAuthenticator API
Mobile SQL	Oracle Lite Mobile SQL

---

## 第 5 章 よくある質問

### 5.1 Oracle9i Lite 5.0 について説明してください。

Oracle9i Lite は、オフライン・アプリケーションを開発および管理し、広範囲のモバイル・デバイスに配布するための統合フレームワークです。Oracle9i Lite 5.0 のコンポーネントは次の 2 つのみです。

- Mobile サーバー
- Mobile Development Kit

コンポーネントが 2 つのみであるため、ユーザーは Oracle9i Lite 5.0 を簡単にインストールできます。管理者は Mobile サーバーを運用環境にインストールし、ISV により開発およびパッケージ化されたアプリケーションを実行します。開発者は Mobile Development Kit をインストールします。開発者は Web-to-Go SDK を使用して、オフライン・アプリケーションを Oracle Lite データベース上に構築します。オフライン・アプリケーションは、ネイティブまたはスタンドアロン・アプリケーション、あるいは Web アプリケーションとして構築されます。

### 5.2 Palm Computing、Windows32 および Windows CE 用の Oracle Lite データベースはどのように変わりましたか？

Oracle Lite データベース自体はそのまま、Oracle9i Lite のコア・コンポーネントになりました。

Oracle Lite データベースは Mobile Development Kit (SDK) の一部です。Mobile SDK を Windows システムにインストールすると、Oracle Lite データベースおよび ODBC、JDBC または Mobile Sync などの関連するコンポーネントやツール、すべてのプラットフォームに対応した API および Web-to-Go SDK が提供されます。包括的なディレクトリ構造により、開発者はターゲット・デバイスやエミュレータに配布する必要があるファイルを容易に見つけることができます。さらに、Mobile サーバーにより、Oracle Lite データベースのランタイム・コンポーネントおよび Mobile Sync をあらゆる種類のデバイスにインストールできます。必要な作業は、ブラウザを使用して単純なセットアップ・プログラムをダウンロードし、このプログラムを実行するだけです。このため、エンド・ユーザーは Mobile アプリケーションを簡単にインストールできます。

## 5.3 Mobile サーバーについて説明してください。

Mobile サーバーでは、Mobile クライアントのインストール、Mobile アプリケーションの管理および広範囲の様々なデバイス・プラットフォームへの配布などを一箇所で実行できます。Mobile サーバーでは、データおよびアプリケーション・ファイルを、適切な Mobile クライアントとともに設定された広範囲のモバイル・デバイスへ配布できます。

## 5.4 同期サーバーはどのように変わりましたか？

Mobile サーバーに統合されました。

## 5.5 Web-to-Go Server はどのように変わりましたか？

Mobile サーバーに統合されました。

## 5.6 Consolidator サーバーはどのように変わりましたか？

Mobile サーバーに統合されました。

## 5.7 Mobile サーバーの管理方法について説明してください。

管理者は、コントロール・センターと呼ばれる Web ベースのアプリケーションを使用して Mobile サーバーを管理します。このツールにより、ユーザーの作成、削除または変更、アプリケーションへのアクセス権限の割当て、スナップショット・テンプレートの変数の設定、リモート・サイトの検査などが実行できます。

## 5.8 Mobile Server Extension API について説明してください。

Mobile Server Extension API では、Mobile サーバーの機能をプログラムによって拡張することを目的としています。実装されている最初の機能では、LDAP などのディレクトリ・サーバーでモバイル・ユーザーの外部認証が可能です。この API には、近い将来さらに機能が追加される予定です。

## 5.9 Mobile クライアントのインストール方法について説明してください。

エンド・ユーザーは、Mobile クライアントを Mobile サーバーからデバイスにダウンロードできます。ユーザーはまず、小さなブートストラップ（セットアップ）・プログラムをデバ

イスにダウンロードする必要があります。このセットアップ・プログラムの実行時に、特定のデバイス・プラットフォームの Mobile クライアントに必要なすべてのファイルが、デバイスへ自動的にダウンロードおよびインストールされます。

## 5.10 セットアップ・プログラムはどこからランタイム・ライブラリを取得しますか？

クライアント側のすべてのランタイム・コンポーネント（Oracle Lite データベース、Mobile Sync および Web-to-Go クライアント）は、Mobile サーバー・リポジトリ（以前の Web-to-Go リポジトリ）に格納されている必要があります。これは、リレーショナル表に実装された仮想ファイル・システムです。DOS または UNIX ファイル・システムに似ています。このファイル・システムには、シェル・ユーティリティ（wsh.exe）を使用してアクセスできます。Mobile サーバーは、すべてのファイルをリポジトリから取得しますが、実際には setup.exe プログラム自体はリポジトリに格納されています。すべてのランタイム・コンポーネントが、/setup ディレクトリの下にあるリポジトリに格納されています。

ディレクトリの内容

/setup/bos Files for Branch Office Server

/setup/epoc Consolidator Client + Oracle Lite Runtime for EPOC

/setup/palm Consolidator Client + Oracle Lite Runtime for Palm Computing

/setup/webtogo Files for Web-to-go Client

/setup/win32 Consolidator Client + Oracle Lite Runtime for Windows32

/setup/wince Consolidator Client + Oracle Lite Runtime for Windows CE

## 5.11 セットアップ・プログラムが、Mobile クライアントにダウンロードするファイルを認識する方法について説明してください。

認識しません。そのかわり、ダウンロードするファイルのリストを含むスクリプト（setup.ini）がダウンロードされます。様々なプラットフォーム（Palm Computing および Windows CE/32）やチップ・セットに対し、それぞれスクリプトがあります。スクリプトも、/setup ディレクトリの下にあるリポジトリに格納されています。たとえば、次のような場所にあります。

/setup/webtogo.ini

/setup/bos.ini

/setup/wince.ini

## 5.12 セットアップ・プログラムが、使用する SETUP.INI ファイルを認識する方法について説明してください。

ユーザーが特定の Mobile クライアント（Web-to-Go 用 Mobile クライアントなど）をインストールしたときに、セットアップ・プログラムは次の URL を使用して setup.exe プログラムをダウンロードします。

`Http://mobileserver/setup/setup.exe?ini=webtogo.ini`

Palm の setup.exe プログラムをダウンロードする URL は、次のようになります。

`Http://mobileserver/setup/setup.exe?ini=palm.ini`

これにより、Mobile サーバーのホスト名および文字列 webtogo.ini が、setup.exe ファイルに追加されます。プログラムを実行すると、コードはファイルの最後を参照するだけで、使用する Mobile サーバーおよびダウンロードするファイルを算定します。

## 5.13 クライアントのランタイム・ライブラリはどのようにしてリポジトリにインストールされますか？

Mobile クライアントのランタイム・コンポーネントは、デバイス固有に実装された Oracle Lite データベース、Mobile Sync および Web-to-Go クライアントから構成されています。これらの Oracle Lite データベース、Mobile Sync および Web-to-Go クライアントは、Mobile サーバーのインストール中に Mobile サーバー・リポジトリへコピーされます。

## 5.14 Mobile クライアントを Palm デバイスにインストールする方法について説明してください。

セットアップ・プログラムをダウンロードして実行するために使用可能なブラウザがないため、インストールには Palm の場合は Palm インストール・ツールおよび Palm 用 Hotsync が Windows システムに必要です。

Windows システムでは、ブラウザを使用してセットアップ・プログラムを Windows システムにダウンロードします。このプログラムがダウンロードされると、Windows システム上で実行できるようになります。セットアップ・プログラムにより、必要なすべてのファイルが Windows システムにダウンロードされ、適切なディレクトリにインストールされます。デバイス用の Palm Computing ファイルはこのような方法でインストールされるため、ユーザーが次に Hotsync をデバイスで実行したときに、ファイルがデバイスへ転送されます。

## 5.15 MobileクライアントをWindows CE デバイスにインストールする方法について説明してください。

サポートされているすべての Windows CE および PocketPC デバイスに、セットアップ・プログラムがあります。

## 5.16 オフライン・アプリケーション自体をデバイス上に取得する方法について説明してください。

Mobile サーバーおよび Mobile Sync (Oracle9i Lite におけるレプリケーション・コンポーネントはこれら 2 つのみです) により、アプリケーションがデバイスにダウンロードされます。オフライン・アプリケーション用のアプリケーション・ファイルは、Mobile サーバー・リポジトリ内に格納されている必要があります。

## 5.17 アプリケーション用ファイルは Mobile サーバー・リポジトリ内にどのように格納されていますか？

すべてのアプリケーションに、アプリケーション・ルート・ディレクトリ (APPROOT) があります。アプリケーションに含まれるすべてのファイルが、このディレクトリの下に格納されている必要があります。アプリケーションの実装方法は、プラットフォームによって異なります。Palm Computing および Windows 32 のバージョンの例を示します。どちらのバージョンも、同じ APPROOT に格納できますが、格納されるサブディレクトリは異なります。次のようになります。

APPROOT/win32

APPROOT/epoc

APPROOT/palm

APPROOT/wince

アプリケーションの Web-to-Go バージョンは、/APPROOT の下に格納されます。

## 5.18 Mobile アプリケーションを Mobile サーバー・リポジトリ内に取得する方法について説明してください。

パッケージ・ウィザード (パブリッシュ・ウィザードとも呼ばれます) を使用してアプリケーションをパッケージする必要があります。この処理には、アプリケーションの設定、アプリケーションの一部であるファイルおよび Mobile アプリケーションに必要なスナップショット (パブリケーション・アイテム) のリスト表示が含まれます。パッケージしたアプリケー

ションは、jar ファイルに保存できます。これらの作業は、通常アプリケーションの開発者によって行われます。アプリケーションをパッケージすると、管理者はコントロール・センターを使用してアプリケーションをリポジトリにパブリッシュできます。

## 5.19 パブリケーションおよびパブリケーション・アイテムの作成方法について説明してください。

パブリケーションおよびパブリケーション・アイテムは、アプリケーションをリポジトリにパブリッシュしたときに自動的に作成されます。パブリケーションは、アプリケーションによりサポートされている各プラットフォームに対して作成されます。パブリケーション・アイテムは自動的に作成され、パブリケーションに追加されます。パブリケーションおよびパブリケーション・アイテムに関する情報は、jar ファイルに格納されたアプリケーションの定義の一部で、パッケージ・ウィザードを使用してアプリケーションをパッケージするときに開発者によって指定される必要があります。

## 5.20 Oracle Lite データベースへの接続に SQL\*Plus を使用できない理由について説明してください。

SQL\*Plus では OCA と、Oracle 独自のインタフェースと ODBC 間の Oracle インタフェース・レイヤーが使用されます。新しい Oracle Universal Installer (OUI) では、SQL\*Plus 8.1.x が必要ですが、SQL\*Plus 8.1.x では現在 OCA はサポートされていません。

## 5.21 SQL を使用した Oracle Lite データベースへの接続方法について説明してください。

Mobile Development Kit にバンドルされた Mobile SQL と呼ばれる新しいツールにより、開発者は Oracle Lite データベースに対して SQL 文を実行できます。

## 5.22 無線ネットワークを介してデータをレプリケートできますか？

はい。TCP/IP、PPP (ダイヤルアップ)、CDPD または 802.11B (WLAN) などの IP ベースのネットワークが、構成を変更せずに使用できます。ARDIS、Mobitex、DataTAC、GPRS、GSM などの IP ベース以外のネットワークまたはパケット切替えのネットワークは、このリリースではサポートされていません。



## 5.23 Hotsync を使用して Palm Computing デバイスでデータをレプリケート できますか？

はい。Oracle9i Lite の Hotsync パイプが、Palm クレドールが連結された Windows システムにインストールされている必要があります。

## 5.24 Oracle9i Lite のコンポーネントについて説明してください。

- Mobile サーバーは Oracle9i Application Server の拡張で、これによりオフライン・アプリケーションを管理し、広範囲の様々なモバイル・デバイス・プラットフォームに配布できます。
- パッケージ・ウィザードは、開発者が Mobile サーバーへアップロードするアプリケーションを準備するときに役立つ GUI ツールです。パッケージ・ウィザードでは、自己完結型のアーカイブ・ファイルが作成されます。このアーカイブ・ファイルには、アプリケーション・ファイルおよびデプロイメント・ディスクリプタが含まれています。
- Mobile Development Kit は、オフライン・アプリケーションを構築およびテストする開発者が使用します。Mobile SDK では API、ユーティリティおよび広範囲の様々なモバイル・デバイス用にオフライン・アプリケーションを構築する手順が提供されます。
- Mobile クライアントは、事前に構成された自己完結型のランタイム・ライブラリのバンドルです。このランタイム・ライブラリは、Mobile サーバーに格納されています。Mobile クライアント (バンドル) は、インターネットを介して配布される実行可能ファイルです。Mobile クライアントにより、ランタイム・ライブラリがモバイル・デバイスにインストールされます。
- Consolidator Admin API は Java 機能のセットで、高度な開発者はこれを使用してレプリケーション・スキーマをプログラム上で作成します。
- Mobile Sync API は、モバイル開発者がレプリケーション・プロセスをプログラム上で制御するための機能のセットです。
- Mobile Sync は Oracle Lite データベースと Mobile サーバー間でレプリケーションをコールする外部アプリケーションです。
- Mobile Server Admin API は Java 機能のセットで、Java 開発者はこれを使用して Mobile サーバー・リポジトリをプログラム上で制御できます。
- Mobile サーバー・コントロール・センターは、管理者がモバイル・ユーザーの作成、変更および削除、Mobile アプリケーションへのアクセス権限の割当て、スナップショット・テンプレートの変数の定義、リモート・サイトの検査などを行うための Web ベースの機能です。

- **Mobile** ワークスペース API は **Java** 機能のセットで、**Web** アプリケーションの開発者はこれを使用してカスタマイズしたワークスペースを構築できます。

---

## 第 6 章 使用できない機能およびコンポーネント

- iConnect — これは、Oracle8i Lite の同期コンポーネントおよびメッセージ・コンポーネントを指す包括的な用語です。
- C-REPAPI — より強力な機能を持つ Mobile サーバー/Consolidator に置き換えられました。C-REPAPI および関連するコンポーネント（Java レプリケーション・クラス、レプリケーション・カートリッジ、OCX ラッパーなど）は CD から削除されました。
- Oracle Mobile Agent — C-REPAPI レプリケーション・テクノロジーに基づき、無線レプリケーションに使用されていました。C-REPAPI は Oracle9i Lite の一部ではなくなったため、廃止されました。
- Web-to-Go サーバー — Mobile サーバーに統合されました。
- Consolidator サーバー — Mobile サーバーに統合されました。
- Synchronization Server for Handheld Devices — Mobile サーバーに統合されました。
- Scout MTS — 現在ではサポートされていません。
- Oracle8 Navigator — 現在では使用できません。ナビゲータ機能は、コントロール・センターまたはパッケージ・ウィザードのいずれかに実装されています。
- Oracle Lite Designer — 削除されました。
- Internet SQL — 削除されました。
- Oracle Lite Deployment Wizard — Mobile クライアントにより廃止されました。
- OLITERM — 必要でなくなったため、削除されました。